

風土記の丘の花だより⁸⁰

今、そしてこれから見られる植物(2021年4月3日)

年度が変わりました。でも、風土記の丘の草木や花はこれまでどおり変わらずに、元気いっぱい咲き誇っています。今年度もそんな草花のすばらしさや美しさをお伝えしていきたいと思います。



まず前回紹介できなかったスミレからです。

これはシハイスミレです。漢字で書くと「紫背堇」です。背中というのも変ですが、葉の裏が紫色なのでこんな名前です。確かに人に例えれば、葉の裏は背中なのではないでしょうか。葉の裏だけでなく、花も他のスミレに比べると紫っぽいというか、赤っぽいというか、そんな色合いです。



これはスミレです。もちろんスミレなのですが、「なんかスミレ」ではなく、「スミレ」という名前のスミレです。このスミレは山の中や山道で見かけたことが余りありません。人の行き交う道の隅や、公園など、私たちの暮らしに近い所に多く生えます。これは駐車場から資料館までの進入路で撮影しました。葉の柄が広いのが特徴です。葉の形はノジスミレに似ていますが、ノジスミレのように毛深くありません。



この花は、スミレに似た色ですがスミレではなく、シソ科のキランソウです。桜の花びらのピンクと、この花の深い紫色がとても素敵なコントラストですね。地面に張り付くように生えるので、他の草に紛れますが、この色ですから、とてもよく目立ちます。園内の至る所で普通に見ることができます。



この花は少し異様な雰囲気ですね。ハランの花です。ハランというよりも、バレンと言った方が分かりやすいですね。葉っぱがあまりにも目立ちすぎるので、花にはほとんどの人が気づきません。株をかき分けて、枯れ葉を取り除くと見つかります。万葉植物園、柳川家の庭、小早川家の庭などで見られます。

今年度もご愛読、よろしくお願ひします。 松下